

香川県支部

県内中小企業の“チャレンジ経営”に関する調査・研究

現下の地方経済低迷の中においても、中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認企業のみならず、中小企業ならではのイノベーションを実現し、着実に業績を向上させている企業は実在する。それは、老舗企業だけでなく、近年において創業した企業もあり、彼らは不確実性の高い市場情勢を「向かい風」ではなく「追い風」と受け止め、新たな顧客ニーズの開拓、新市場の創造など確実に実績を積み上げている。

現在の香川県の経済状況は、一部に持ち直しの動きもみられるが、依然として低位推移しているのが現状である。新規投資意欲の衰退、所得減少、雇用不安、消費不振等マイナス面が強調されている側面は否めない。しかし、そのような状況であるからこそ、勇気をもって、新たな挑戦に取り組む中小企業の存在が注目されているところである。

こうした現状を踏まえ本調査・研究は、香川県内で、意欲的な取り組みに果敢に「挑戦する中小企業」にスポットライトをあてる。そして、さまざまな取り組みの実態、目の付けどころを明らかにするとともに、その実情等について検討することとした。

第1章 中小企業の現状とチャレンジ経営の取り組み

1. 中小企業を取り巻く環境
2. 中小企業の抱える経営課題
3. チャレンジ経営への主な取り組み

第2章 調査の概要

第3章 インタビュー調査の結果

第4章 総括

1. インタビュー調査から考察できる“チャレンジ経営”の実態
2. “チャレンジ経営”のまとめ

今回の調査からも推察できるが、経営者の独りよがりな固執した考え方や、外部環境への依存で満足するのではなく、社員や顧客のニーズに対応していく姿勢が、新たなサービスや商品の開発を実行する原動力となり、チャレンジ経営を成功させることにつながっているとうかがえる。

チャレンジ経営というと、社長一人の取り組みのようにも感じ取れるが、今回のインタビュー調査から、社長のリーダーシップにより、社員の力を最大限活用していることがわかった。

経営というものは、社長一人で行うものではなく、多くの関係者との関わりにより成り立っている。その気づきによる感謝が、売上げ増という成果を生みだしている。

また、常に現状に満足せず、前進し続けている姿勢は、他社との差別化のため常に新たなものへの取り組みを行っているという視点だけではない。

社員や顧客、取引先関係者を大切にするといったごくごく当たり前のことを、誠実に着実にやっていることが、結果的に新商品の開発や新たなサービスとして経営における成果に反映されていることがわかった。